

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 13 日現在

機関番号：17102
研究種目：基盤研究(C) (一般)
研究期間：2014～2016
課題番号：26370430
研究課題名(和文) 昭和モダンの展開/転回ー1930～40年代東アジアにおける文化翻訳のポリティクス

研究課題名(英文) Expanding the Modern: The Politics of Cultural Translation in East Asia, 1930-40s

研究代表者
波瀨 剛 (NAMIGATA, TSUYOSHI)
九州大学・比較社会文化研究院・准教授

研究者番号：10432882
交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：1930年代から1940年代における東アジア地域間でのモダニズムをめぐる文化翻訳・越境のあり方について、資料調査、文献渉猟を行った。その結果、モダニズム文学・モダン文化の同時代性と、双方向的な文化の流通・消費の過程が顕著に認められる一方で、1930年代後半から1940年代にかけて、それぞれの地域において現象が個別化していき、モダンの文化・文学が収束していく経緯にも差異が生じていくことを確認した。

研究成果の概要(英文)：This project surveyed and analyzed the journals, books, and other cultural materials regarding cultural translation of Modernism among East Asian from the 1930s to the 1940s. And as a result, contemporaneity of modernism literature / modern culture in East Asia and the interactive process of cultural circulation and consumption are remarkably recognized, but from the latter half of 1930 's to the 1940' s, phenomena of cultural translation have been specialized in each region, and the process of convergence of modern culture and literature would also transform separately..

研究分野：人文学

キーワード：比較文学 日本文学 モダニズム 昭和モダン 文化翻訳 東アジア 1930年代 1940年代

1. 研究開始当初の背景

(1)本研究は、1930年代から40年代における、日本、韓国、中国、台湾を含む、東アジア地域間でモダニズム現象の同時性を多面的に分析することで、同地域における文化翻訳・文化交渉のプロセスを検証できるのではないかと発想した。

(2)当該研究代表者は、2007-2008年度に若手研究費Bの助成を受けて、「昭和モダンの生成にみる文化翻訳のポリティクス」という課題に取り組んだ。そこでは、昭和モダン文化で、高級文化としてのモダニズムと、大衆文化としてのエロ・グロ・ナンセンスの双方で干渉し合いながら展開していった点、同時期、西欧のエキゾティシズムが、朝鮮、満洲などを対象としながら文化的に翻訳されていった点、1930年以降、日本のモダニズム文学とスポーツとのかかわりが顕著になる点などが明らかになった。

(3)その一方で、東京での文化的な動向が、ほぼ同時代的にソウル、上海、台北などへと伝わり、その逆の動きもあった可能性を把握しつつも、基礎的な資料調査が不足していて、一次資料、関連研究の包括的な把握という点では、十分な結果が残せなかった。

(4)そこで、2011年の夏から1年間公益財団法人日韓文化交流基金の派遣フェローシップによって、ソウル大学日本研究所に在籍し、現地での資料収集にあたった。その結果、京城帝国大学に関する資料を収集できただけでなく、1990年代後半から2000年代を通して量産された韓国のモダニズム文学、モダン文化に関する学術論文と学術図書の動向を把握することができた。

(5)また、帰国した2012年以降、翌2013年には、『上海100年』(鈴木貞美・李征編著)、『上海モダニズム』(鈴木将久、『戦間期東アジアの日本語文学』(石田仁志・掛野剛史・渋谷香織・田口律男・中沢弥・松村良編)といった、上海を起点とするモダニズム関連の図書刊行が相次ぎ、東アジアのモダニズム研究がさらに広がりを見せた。

(6)こうした点を踏まえて、本課題においては、東アジア地域間における文化の交渉、翻訳の諸相に重点を置いて、昭和モダンと東アジアとのかかわりについて検討することを目標とした。

2. 研究の目的

(1)1930年代から1940年代における、東アジア地域間でのモダンをめぐる文化翻訳・文化交渉のプロセスを、具体的な事例を集めて、明らかにする。

(2)最盛期以後のモダニズムに関する変容について、とくに日本における戦中・戦後のモダニストの活動を軸に検証、再評価する。

3. 研究の方法

(1)上記の研究目的を達成するために必要な資料を東アジア各地で現地収集するとともに、学会発表や学術交流を通じて、韓国、中国、台湾などの研究者から最新の研究動向を得つつ、個々の成果を論文として発表した。

(2)国際的共同研究に発展させていくための基盤づくりとして、3年間の研究期間を通じて、基礎的な一次資料の収集・整備、及び、次世代、若手研究者を含む、東アジア研究者間のネットワーク形成を行った。

(3)また、研究成果をインターネット上に多言語で公開するだけでなく、文学館との連携等を通じて、広く内外への研究成果発信に努めた。

4. 研究成果

(1)1年目は、課題採択前から取り組んでいた韓国モダニズムの調査と資料や研究動向の分析を継続し、研究ノート「東アジアの同時性」の視座-1930年代モダニズム文学・文化に関する研究ノート」にまとめた。そのなかで、2000年代以降、2010年代に入っても、1920年代から1930年代の韓国におけるモダン文化を対象とする学術書刊行が続いて、一次資料の発掘も盛んに行われていることを明らかにした。また、文学については、京城帝国大学の校友会誌などをあらためて考察し、翻訳をめぐる分析をさらに進める必要があると感じ、末尾に『京城帝大英文学会報』の総目次を掲載した。

(2)2014年6月に東京学芸大学で開催された日本社会文学会のシンポジウムで発表した。そこで、韓国におけるモダニズム・モダン文化の研究成果が、映画・ドラマをはじめとする文化産業に取り入れられ、1930年代を時代設定とするあらたなジャンルが形成されている点を論じ、その内容を論文「コロニアル・モダニティの射程-グローバル・アジアの時代に」にまとめた。

(3) 2年目は、東アジア全域でのモダニズム研究の最新動向を把握し、さらにはその内容を市民にも伝えるという目的の下に、韓国（江原大学、キム・イェリ氏）、中国（復旦大学、李征氏）、台湾（国立政治大学、呉佩珍氏）から講師を招聘して、福岡市文学館との共催で公開講座「モダンの文学、モダンなアジア-1920、30年代の上海、台北、ソウル、そして福岡」を計4回開催した。そのなかで、すでに研究においても蓄積の進む中国、この10年で一気に研究が加速した韓国に加えて、現代は台湾でも1920年代から1930年代の文化史についての研究に注目が集まっていることが明らかになった。

(4)同公開講座の第4回において、福岡のモダン文化・文学に関する報告を行い、また、公開講座全体の内容を抄録でまとめる計画を立てた。抄録は3年度目に公刊した（「抄録 公開講座「モダンの文学、モダンなアジア-1920、30年代の上海、台北、ソウル、そして福岡」」）。

(5)公開講座を開催し、実際に聴衆の動向を知ることで、中国、台湾、韓国、日本それぞれのモダン、モダニズムについて関心のある層は異なり、今後は、東アジア全般のモダニズムについて横断的に研究し、その内容を広く発信し、歴史的意義を共有できる知的環境が整備される必要があるとあらためて実感した。

(6)3年目は、1、2年目の調査結果等を活かし、昭和モダンとハルピン、上海との関係や、1930年代の韓国における文化翻訳、東アジアにおけるエキゾティシズムの問題などについて、日本国内だけでなく、韓国、台湾、中国、フィリピン、カナダにおいて、論文投稿や学会発表を行った。これらの分析を通じて、1920年代半ばから1930年代前半にかけて、東アジアにおいてほぼ同時に受容されたモダン文化・モダニズム文学には一定の普遍性が見られるが、他方で、1930年代後半以降は、郷土主義とのかかわりなどを見て、それぞれの地域的特性が顕著となり、モダンの変容にも差異が生じていくという見通しを立てた。

(7)2016年10月には、東アジアと同時代日本語文学フォーラムを国際交流基金等との共催で実施した。ここでは林芙美子の『放浪記』に関する戦後の改訂をめぐる、昭和モダンの記憶がどのように変容するのかについて論じた（「よみがえる 帝都/モダン」の物語-林芙美子『放浪記』の戦後」。また、フォーラムに開催に当たり、九州大学をはじめとして、東アジア各地から参加した大学院生、次世代研究者とともに運営に従事して、研究者の育成とネットワークの形成に努めた。

(8)今後の国際共同研究を遂行するうえで必要性が認められる研究資料、学術書、雑誌の復刻版等を継続的に収集した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 4 件)

波瀾剛・李征・呉佩珍・キム・イェリ「抄録 公開講座「モダンの文学、モダンなアジア-1920、30年代の上海、台北、ソウル、そして福岡」」, 九大日文、29号、2017年、査読なし、117-128頁

NAMIGATA Tsuyoshi, "Another Paris in the Orient": Overlapping Exoticism in Japanese Modernism around 1930, *Trans-Humanities*, Vol.9, No.3, 2016年、査読有、191-210頁

波瀾剛, 「コロニアル・モダニティの射程-グローバル・アジアの時代に」, *社会文学*, 41号、2015年、査読有、34-43頁

波瀾剛, 「東アジア的同時性」の視座-1930年代モダニズム文学・文化に関する研究ノート」, 九大日文、24号、2014年、査読なし、33-48頁

〔学会発表等〕(計 9 件)

NAMIGATA Tsuyoshi, Representation of Josephine Baker and its Cultural politics in 1930 Korean Literature, AAS 2017 Annual Conference, 2017年3月18日、Toronto (カナダ)

波瀾剛, 北へ南へ-徴用作家とエキゾティシズム, 第五回東南アジア日本学会, 2016年12月16日、セブ(フィリピン)

波瀾剛, エロ・グロ・ナンセンス概念の成立と伝播(発表言語: 韓国語) ソウル大学アジア研究所企画課題ワークショップ, 2016年11月11日、ソウル(韓国)

波瀾剛, よみがえる 帝都/モダンの物語-林芙美子『放浪記』の戦後, 東アジアと同時代日本語文学フォーラム, 2016年10月29日、名古屋大学

波瀾剛, 東アジアにおけるエキゾティシズムの変容-昭和モダン再考 1930-1936, 政治大学数位資料與研究論壇 2016「往返之間: 戦前台湾與東亜文学・美術的伝播與流動」, 2016年10月7日、国立政治大学(台湾)

波瀾剛, ユーモア、スポーツ、戦争-昭和文学の一断面, 中国日本文学研究会第15回国際学術検討会, 2016年8月12日、杭州市(中国)

NAMIGATA Tsuyoshi, "Another Paris of the Orient: Overlapping Exoticism in Japanese Modernism around 1930", *International Symposium: Translation*,

Transcutulation, and Transformation of Modernity in East Asia、2016年7月23日、九州大学(福岡)
波瀾剛、モダン都市福岡の文学と文化、科学研究費助成事業公開講座「モダンの文学、モダンなアジア-1920、30年代の上海、台北、ソウル、そして福岡」、2016年1月30日、福岡市赤煉瓦文化館
波瀾剛、「コロニアル・モダニティの視座-グローバル・アジアの時代に」、日本社会文学会、2014年6月21日、東京学芸大学

〔その他〕
ホームページ等

論文「『東アジア的同时性』の視座-1930年代モダニズム文学・文化に関する研究ノート」(九大日文、24号、2014年)については、エンバゴ期間が経過した後、当該雑誌のホームページにおいて、韓国語、および中国語(簡体字・繁体字)の翻訳版を掲載した。

論文「抄録 公開講座『モダンの文学、モダンなアジア-1920、30年代の上海、台北、ソウル、そして福岡』」(九大日文、29号)についても 同様の公開を進めるために、韓国語・中国語への翻訳を行った。

いずれも下記において公開する。
<http://scs.kyushu-u.ac.jp/~th/nitibun/kyudainitibun/kyudainitibun.htm>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

波瀾剛 (NAMIGATA TSUYOSHI)
九州大学・大学院比較社会文化研究院・
准教授
研究者番号：10432882